

会場へのアクセス

函館市青年センター

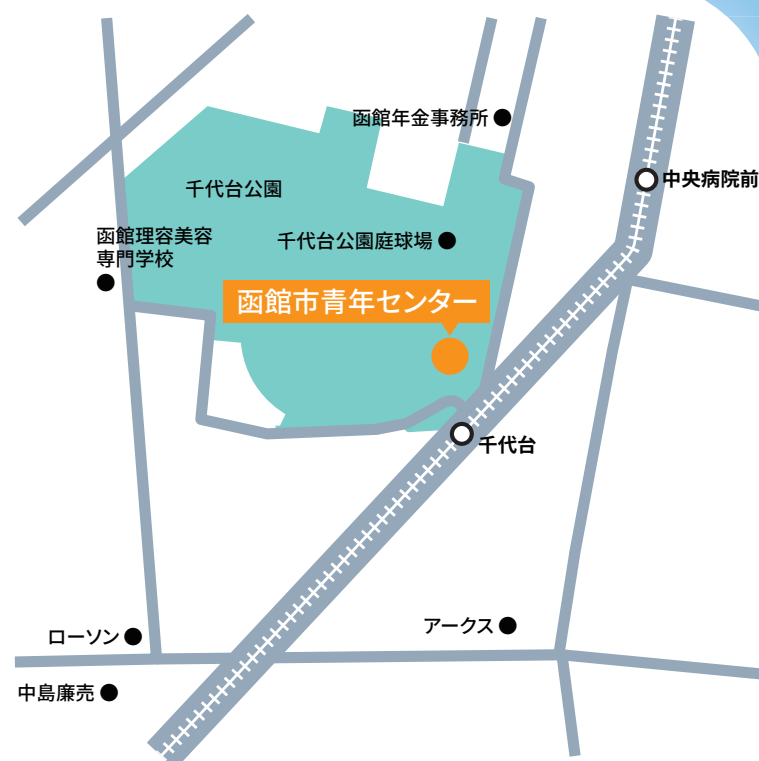
〒040-0013 北海道函館市千代台町27番5号

公共交通機関をお使いの方

市電「千代台電停」下車、徒歩1分
バス「千代台」下車、徒歩2分
バス「テオーデパート前」下車、徒歩10分

自家用車をご利用の場合

千代台公園駐車場をご利用ください。
青年センターでの駐車券の認証で2時間
まで無料で使用できます。(以後30分ご
と100円)
※スペースに限りがありますので、できる
限り公共交通機関をご利用ください。路
上および近隣店舗等の駐車場への駐車
は迷惑になりますので、おやめください。



アカデミックリンクの開催にあたり各企業の皆様から ご協賛を賜りました。ありがとうございました。

株式会社いちたかガスワン・株式会社エスイーシー・
株式会社近藤商会・株式会社ニューメディア函館センター・
株式会社函館新聞社・株式会社北海道新聞函館支社・
五稜郭タワー株式会社・佐藤公郎建築設計事務所・
大明工業株式会社・函館山ロープウェイ株式会社・
有限会社三和印刷 (敬称略・順不同)

出展ブース、ステージの審査にあたっては、 次の企業・団体などの皆様にご協力賜ります。 ありがとうございます。

産学官連携「クリエイティブネットワーク」・市立函館高等学校・
北海道渡島総合振興局・株式会社北洋銀行・
特定非営利活動法人函館市青年サークル協議会・
北海道退職校長会函館支部・北海道中小企業家同友会函館支部・
北海道教育庁渡島教育局・函館市経済部

主催

キャンパス・コンソーシアム函館

加盟団体

公立はこだて未来大学／函館大谷短期大学／
函館工業高等専門学校／函館大学／
函館短期大学／北海道教育大学函館校／
北海道大学大学院水産科学研究院・水産学部／
ロシア極東連邦総合大学函館校／
函館商工会議所／函館市

後援

北海道教育庁渡島教育局

お問い合わせ キャンパス・コンソーシアム函館 事務局

〒041-8655 北海道函館市亀田中野町116番地2
公立はこだて未来大学内

TEL. 0138-34-6121 FAX. 0138-34-6101
MAIL. info@cc-hakodate.jp

CCH キャンパス・コンソーシアム函館

公式サイトはQRコードからアクセス

<https://www.cc-hakodate.jp/>



HAKODATE アカデミック リンク2025

進路を考えるきっかけに
先輩たちの研究を学ぶチャンス
今、函館で学べるが見えてくる

CCH キャンパス・コンソーシアム函館

はこだて高等教育機関 合同研究発表会

2025 11.9 日 12:00-15:00 @函館市青年センター
函館市千代台町27番5号

ブースセッション
体育館

ステージセッション
会議室



HAKODATE アカデミックリンクとは？

函館市内8高等教育機関の学生が一堂に会し、普段研究している内容や成果などをポスター展示や実演などによって発表し合う合同研究発表会です。会場では、学生とのコミュニケーションも楽しめます。最先端の研究や地域課題へのアプローチなど、函館の学生たちの取り組みをぜひ見に来てください。

街が僕らのアカデミア

函館市内にある8つの高等教育機関(大学・短大・高専)では、学生・教員らが持つ「体験」「発想」「探求心」から生まれる様々な研究がそれぞれのキャンパスで進行中です。これらの一端ではありますが、市民の皆さんにわかりやすくご紹介し、各研究テーマの協力・連携の可能性を探るべく各校が一堂に会します。当日は、ブースやステージでの発表をとおして、ここ函館を舞台に日々繰り広げられている研究活動がより身近に感じられるはずです。中学生・高校生の皆さんには今後の進路決定の参考に、企業の皆さんには学生の発表から新たなアイデアを探し出す機会になりますので、ぜひともご来場ください。心よりお待ちしております。



ステージセッション参加チーム

ステージでの発表

12:35~14:00

11分間の持ち時間で繰り広げられるステージでのプレゼンテーションです。

1 函短大 チーム わくわくSTEAM隊

幼児教育で STEAM 教育を実践するための指導法

幼児教育の段階では技術的な観点からSTEAM 教育の導入が難しい。そこで幼児教育における「おもちゃを自分で作る活動」からSTEAM教育の要素を見出し、教材開発をして保育園で実践をし、幼児教育でSTEAM教育をする際に必要な指導法を考察した。

チーム代表 櫻井樹音
チー ム 員 坂上裕香・館山レナ・谷内真夜・山本未兎
吉田伶央

2 北大水 チーム フコイ団

フコイダンによる血液凝固の抑制と促進—魚類と哺乳類で異なる働き—

コンブなどの褐藻に含まれるネバネバ成分「フコイダン」は様々な生理活性を持つ。私達チームフコイ団はフコイダンの血液抗凝固に対する影響を調べ、その結果、哺乳類と魚類で正反対の作用を示すことを発見した。フコイダンに眠る未知の可能性を解明していく！

チーム代表 長澤和貴
チー ム 員 青木建斗・曾我英利・辻井豪佑・太田龍成

3 未来大 チーム ミライリング

アクティブ音響センシングを用いた無音発話認識リングの提案

超音波を用いたセンシング技術により、指輪型デバイスで口元の動きを捉え、声を出さずに発話内容を入力するインターフェースの実現を目指す。

チーム代表 浅古尚登

4 函館大 チーム 海ゴミアップサイクル

海ゴミアップサイクル奥尻島編

函館で始めた海ゴミアップサイクル活動を奥尻島へ広げ、作品づくりや交流を通じて地域の課題を見つけ、解決に向けて考え行動していく。

チーム代表 奥寺嵐史
チー ム 員 佐藤武勇・平田武大・釣谷橙知

5 北教大 チーム 04メダカ会

メダカにモテる男は誰か？

メダカはエサをくれる人の顔を見分けて、その人を好きになってくれるだろうか。AIで生成した複数の男性の顔を用いてメダカにオペラント条件付けを行い、テッポウウオ同様(Huberら、2016)、メダカも人を見分けられるか検証した。

チーム代表 深野煌太
チー ム 員 斎藤優心・菅原大輝・田澤篤志・川村耀
菊地なな子

6 北大水 チーム 淡水増殖研究室 ウナギチーム

ウナギの卵の成熟・排卵を引き起こすものは何か？

ニホンウナギの安定的な養殖を実現するためには、卵の形成メカニズムを理解する必要がある。そこで我々は、卵形成の最終段階である卵成熟と排卵に着目し、これらのイベントがどのような条件下で、どのような機構によって引き起こされるのかを調べている。

チーム代表 宮下祥馬
チー ム 員 横山仁哉



ブースセッション参加チーム

パネル展示や実演・解説

パネル展示を前に各種のデモンストレーションや解説などを行います。

1 特別参加 チーム 南北海道学術振興財団

南北海道地域の学術研究と科学技術のために

当財団は「南北海道地域における学術研究の振興を図り、もって科学技術の進展を担う人材の育成並びに地域の学術、教育、文化及び産業の発展に寄与すること」を目的に、大学教員等の研究や海外学会での発表、大学生・大学院生の留学に対して、助成をしています。

チーム代表 廣岡優

2 未来大 チーム すういふと2025 防災グループ

防災への行動の第一歩につながる防災意識診断アプリ

1分でできる防災診断です。何から対策を始めればいいかわからない人のために、6種類の結果から行動の指標を提示します。自分の防災意識を振り返り、新しい気づきや行動の第一歩につながる体験を通じて、防災を自分ごととして考えるきっかけを提供します。

チーム代表 梶島紗良
都志耕夏・小野田耀・門脇知香

3 函館大 チーム ケアラボ

無償で誰かをケアすること

金銭の授受なしに、家族間・親族間・知人間などで行われる育児・家事・介護・看護といった他者へのケア労働についての意識調査

チーム代表 成田紀那
チーム員 池田莉都・泉玲蘭・佐藤あすか・末武樹夏
谷口優・中村俊輔・新山奈々美・平田鈴莉
古矢優空・南坪鼓太郎・山崎優大



16 函館大 チーム 函館大学サウナチーム

函館におけるロウリュを通じた観光振興戦略 ～地域活性化への可能性と課題～

ロウリュとは、サウナストーンに水をかけることで湿度と体感温度を上げ、発汗を促す近年日本でも人気のサービスである。本研究では、函館の観光活性化や市民の健康向上を目的に、ロウリュを通じて新たな体験型観光を提案する。

チーム代表 斉藤羽瑠

14 特別参加 チーム 東京理科大学長万部キャンパス C19

東京と長万部のトビラを開こう～短期交換滞在プログラムに向けて～

「問い」を軸に町民との新たな関係性を探る活動を実施した。プレイベントでZOOMを用いて対話し、地域外の視点で町の魅力を再発見することを目的とした。交流で得た気づきを可視化し、課題には柔軟に対応し改善を重ねた。

チーム代表 石川華衣
チーム員 王澤潤・井手野乃子・藤村斗哉

15 未来大 チーム 面談調整支援システム「めん助」

小学校で1年間使った面談調整支援システムの実践と成果

保護者との面談日程をGoogleフォームで自動収集し、希望を表に自動反映して簡単に調整できるシステムを開発しました。そして、函館市立樫根小学校で1年間運用、アンケートを行い、その結果から良かった点、改善点を発表します。

チーム代表 佐々木虎太郎

4 北教大 チーム 生理にやさしい社会をつくらう!プロジェクト

函館市の官公庁と民間企業の生理休暇について

みなさんは生理休暇について知っていますか？私たちは生理にやさしい社会を目指して、社会人を調査対象に生理休暇制度について調査しました。生理に関する正しい理解を広めることで、誰もが安心して働ける環境づくりにつながっていきたいと思います。

チーム代表 加賀谷礼奈
チーム員 遠藤果鈴・貝守美紀・川村里佑・佐井鈴蘭
長尾歩華

5 大谷短 チーム イマサイクラブ

怒っているのは”今”じゃない!?—理不尽な怒りの心理とその背景

怒りは一般的に不利益や不当感、他者への責任帰属で喚起されると考えられています。しかし、その場に不釣り合いなほどの激しい理不尽な怒りは過去体験に起因する可能性が考えられます。本研究ではカスハラ場面に着目し、この心理的背景と対応策を考察します。

チーム代表 山田葵
チーム員 外崎莉達・中道乃映・長谷川莉紗・山崎果怜

6 特別参加 チーム 東京理科大学長万部キャンパス ラミー

どうデザインする?こうデザイン(コデザイン)しよう!

コデザインとは利用者と共に創るデザイン手法です。私たちは「みんなが楽しめるスポーツ」をテーマに、パークゴルフでの「場がなくなる」との声から「灯を消さない」というビジョンを共創しました。これらを通して私達が考えるコデザインとはを提案します。

チーム代表 森寶雷太
チーム員 大久保新太・萱場深礼・金子友美

19 特別参加 チーム 東京理科大学長万部キャンパス ジャがいも

じゃがいもでコ・デザイン

私たちは大学の授業を通してコ・デザインというものを学びました。長万部町という町と関わっていく中で、住民ではないからこそ気づいた視点・町民とともに楽しんだ体験などを通してじゃがいもでコ・デザインができないかと模索し続けています。

チーム代表 笠原風
チーム員 雨宮暖・入澤蒼太・柳澤優佳

20 特別参加 チーム 青森公立大学 青森まちなかしからあゝs

青森駅前市街地活性化の取組

青森まちなかしからあゝsでは、青森市中心市街地での清掃活動やイベントのボランティアを通して、中心市街地活性化に向け尽力しています。今年度も市内大学生を対象とし、中心商店街との連携イベントを企画中です。

チーム代表 能登七海
宮腰奏美・徳差優輝・杉菜名・中野優花
佐々木悠衣

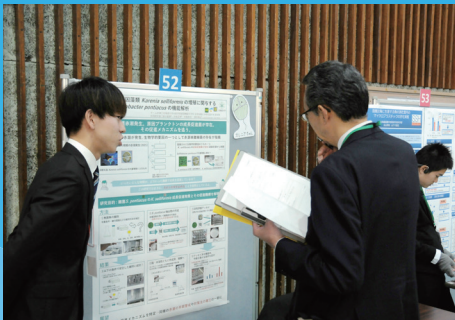


7 函館大 チーム 函館大学人口問題チーム

観光都市から「住むまち」へ

函館市では、近年人口減少が問題となっている。移住者数は増加傾向にあるが、函館市からの転出者が移住者よりも多く、移住によって人口増加には至っていない。そこで移住者によって人口が増加している地域である北海道東川町を研究し、函館市と比較する。

チーム代表 福沢歩芽
チーム員 山村未来・田中捷梧



8 未来大 チーム 高度ICT演習 Dotto

未来大生支援アプリ「Dotto」

本グループは、公立はこだて未来大学の学生を支援するモバイルアプリ「Dotto」を開発・運用しています。学内の分散して見つけにくい情報を一元化し、学生生活を支援することを目的としています。アプリはiOSとAndroidで利用可能です。

チーム代表 細田彩香
チーム員 齊藤輝・大須賀雅也・及川寛太・高橋慧流
藤間里緒香・仲里絢音・門脇知香・庄司一樹
永田来煉・山崎壮馬・笹井快迅・高橋咲好
米津拓恭

21 未来大 チーム 高度ICT演習 QuizMaker

誰でも簡単にクイズゲームを作れる「QuizAtive」

誰でも簡単にクイズゲームを作れるようなソフトウェア「QuizAtive」の開発に取り組んでいます。本グループは江差郷土資料館と連携しており、そこで実際に運用することが現状の目標です。発表当日はデモクイズを展示するので是非プレイしてください。

チーム代表 宮原良太
チーム員 北澤陽・小野田耀

22 未来大 チーム 高度ICT演習 ばすういふと

函館地域のバスの利用をサポートする「ばすういふと」

既存のバス検索・ロケーションアプリの利点を取り入れ、使いやすいデザインに配慮した函館市向けバス検索アプリを開発しています。学内で実際に利用していただき、フィードバックを基に改良を重ね、より便利で親しみやすいサービスを目指しています。

チーム代表 池端妻
チーム員 外川尚樹・佐々木羽瑠

23 函館大 チーム Hakodate Well-being Lab

移住学生と地元学生からみた函館の幸福度比較

函館市は深刻な人口減少の問題に直面している。一方で幸福度の低さがしばしば取り上げられる。函館市に移住してきた学生と地元学生を対象に、幸福度に影響を与える要因と幸福度の関係性を調査し、両者の比較分析を行うことによって二つの問題の解決を図る。

チーム代表 西村拓人
チーム員 虹川颯汰・木村健太・木村莉玖・中島萌登
新沼茨苑・平清水匠・松下凜太



9 函短大 チーム わくわくSTEAM隊

幼児教育で STEAM 教育を実践するための指導法

幼児教育の段階では技術的な観点からSTEAM 教育の導入が難しい。そこで幼児教育における「おもちゃを自分で作る活動」からSTEAM教育の要素を見出し、教材開発をして保育園で実践をし、幼児教育でSTEAM教育をする際に必要な指導法を考察した。

チーム代表 櫻井樹音
チーム員 坂上裕香・館山レナ・谷内真夜・山本未兎
吉田怜央

10 北教大 チーム 放課後学習支援サポート

大学生と挑む! 宿題ダンジョン～放課後レベルアップ大作戦～

小学校で、大学生が児童の宿題や基礎学習をサポートし、学びの習慣を育てます。児童と学生との関係性を築くことで、安心して学べる環境を作り、児童の学力向上と家庭学習の習慣を身に付けることをめざす取り組みです。

チーム代表 小崎尚弥
チーム員 大澤由鈴・佐々木大世・渡邊裕樹・上井敦也
兼平凜・阿部紗代・川村帆乃花

24 北大水 チーム WE LOVE SALMON & HOKKAIDO

シロザケ人工飼育から紐解く資源減少問題

北海道においてシロザケは重要な水産資源です。しかし、近年北海道に帰ってくるシロザケは減少しており、その理由はよくわかっていません。そこで、私はシロザケを人工飼育し、条件を変えながら成長を評価することで資源減少の原因解明を目指します!

チーム代表 河合瑛樹

25 北教大 チーム 北教大

男性のキャリア形成について

あまり視点の向けられていない男性の育休の取得やキャリア形成について、教員と他の職種で比較検討し、今後に向けた改善案を考えていく。

チーム代表 阿部悠生
チーム員 小向光・鈴木優花

26 特別参加 チーム 函館大学付属樫根高等学校 理科研究部

北海道函館市臼尻地区における雄性配偶体の出現傾向とフィコビリタンパク質量

北海道函館市臼尻地区に繁茂する紅藻「ダルス」を対象に、孢子体と雄性配偶体の識別調査を2カ年にわたり実施し、その経年的変化を明らかにしました。さらに、フィコビリタンパク質量を測定し、健康機能性の高い条件を検討しました。ぜひご覧ください。

チーム代表 山本陽太郎

11 未来大 チーム すういふと2025教育グループ

児童・保護者・教諭を繋ぐ小学生向け生活記録システム

小学校向けの生活記録システムです。児童が自主的に生活を改善することや、児童と先生と保護者のコミュニケーションのきっかけとなることを目指します。児童は勉強時間や睡眠時間などを記録でき、先生と保護者は児童の記録を確認してコメントを記入できます。

チーム代表 合田春香
チーム員 下里一葉・小谷和花・細田彩香・滝本杏奈

12 函館大 チーム 函館ブランディング研究班

函館サーモンのブランド化について

2021年に養殖がスタートした「函館サーモン」。その誕生の歴史から、徹底した品質管理や環境保全、そして函館サーモンの取り組みがめざす「三つの目標」について紹介し、ブランド化にどのように取り組むべきかを考察します。

チーム代表 中谷一輝
チーム員 淡路建司・金丸竜大・桑原一颯・佐藤愛那
塚原柚哉・寺門史優

13 未来大 チーム LOGROKU

新しい日記体験

AIの発展で人々の思考力の低下が懸念される未来に向け、日記とスコロクを組み合わせた新しい日記体験を提案します。ゲーム感覚で過去を振り返りながら、自己理解や自己肯定感を高め、友人とも共有して楽しめるサービスです。

チーム代表 石川雅登
チーム員 初山健人・菅原仁・植村真子・木村了

27 未来大 チーム 高度ICT演習 おさかな日和

分散型水族館の根幹を築く：システムから体験まで一貫した開発

函館各地の遊休スペースを活用し水族館を作っている「函館まちかど水族館」とコラボをし、モバイルアプリ開発やIoTデバイスの開発など、分散型水族館の根幹を築くシステム開発をしています。

チーム代表 佐々木大聖
チーム員 祐川雅治・工藤穂香・中村心

28 北大水 チーム WE LOVE SALMON & HOKKAIDO

目指せ海面養殖!～サクラマスに適した光の飼育条件～

皆さんは海に降らないサクラマスの存在を知っていますか?このような個体は海水に適応できないため、海面養殖では望まれません。私の研究の最終目標は、人工的に昼と夜の長さを変えることによって、任意のタイミングで全ての個体を海水に適応させることです。

チーム代表 清水孝太郎

29 函館大 チーム ブルーカーボン

持続可能な海づくり：日本のブルーカーボン戦略における道南の役割

本研究では、道南の海洋環境に着目し、藻場や干潟などのブルーカーボン生態系を調べました。学生による調査活動や地域との連携を通じて、日本の戦略とのつながりを考え、国際的な視点から道南の海洋資源の可能性と持続的利用について考察します。

チーム代表 若松唯斗
チーム員 太田一颯・蛸嶋啓互

30

特別参加

チーム
東京理科大学長万部キャンパス
コミュニティUP!

フェスティバルの共創―突然起こる楽しい空間を目指して―

コ・デザインの精神の下、「フェスティバルを作る」をテーマに活動。その定義を「突然起こる楽しい空間」とした。地域住民との交流やブレイイベントを通じて考えを深め、主催者ともに楽しむ姿勢の重要性を確認できた。本発表ではその在り方を提案する。

チーム代表 乙丸英知
チーム員 込山凜・佐々木陽琉・佐藤美美

31

特別参加

チーム
青森中央学院大学
市川セミ

青森県の民藝品で考える地域の伝統文化

1926年に民藝運動が展開され、日常生活道具に価値を見出されるようになった。本報告では、青森県の民藝品の現状と今後民藝品に対する若年層への認知を高める方策を調査した。地域の伝統文化としての民藝品の継承と活性化について検討している。

チーム代表 阿保友里乃・山口愛那

32

函館大

チーム
歴史版「たーデーの刃」無限乙部編

乙部町の歴史文化徹底分析！

私たちが調査を行った乙部町の主な課題として、歴史や文化、史跡など様々な魅力や特色があるものの、認知度が低く、地域のブランド化がされていないことがわかりました。これらの解決に向けて、2つのアプローチを提案します。

チーム代表 館脇蓮
チーム員 小林なつ・野口白翔・山本拓哉

46

未来大

チーム
公立はこだて未来大学PBL5

ロボットで未来大を世界にアピール！エンターテインメントロボット&ドローン

ポスターで私たちの目標である”ロボットで未来大を世界にアピール”について解説します！また、私たちの制作した、誰でもロボットを動かせるアプリケーション、モーションエディタの実演をします。

チーム代表 籠谷樹人
チーム員 高橋啓吾・安達涼太・大倉寛晴



47

函館大

チーム
商業実習I 蘭班

函館（道南）とGX ～地域が持つポテンシャルを知ってくれ!!～

近年、函館市はGX推進に対して意欲を示しつつある。しかし、発電施設の多くが周辺の地方部に設置されている。そこで、私たちは函館市民のGXに対する関心度を調査し、得られた知見を基に、持続可能なGX推進を実現するための政策提案を行う。

チーム代表 岡一護
チーム員 中里正宗・山下慶人・小澤優人・木村悠人
戸嶋快吏

33

特別参加

チーム
東京理科大学長万部キャンパス
フレッシュジーンズ

長万部交換ノート

北海道長万部の地域施設に交換ノートを設置し、世代や立場を超えた手書きによる意見の交流を実現した。本音を引き出す深い交流を目指し、どのような環境や話題で現代のネット社会を生きる人々が本音を語り、交流の結果なにを生むことができるのか検証した。

チーム代表 藤木ゆりあ
チーム員 原田怜・茂手木笙馬・吉原葵

34

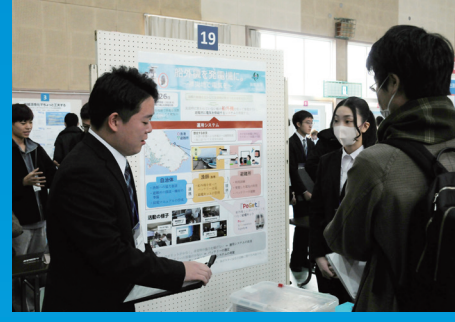
函短大

チーム
ねばらぼ

すごいぞ！パワフルなっとうマン

納豆は、私たちの健康づくりを助けてくれる栄養満点の食品です。一方で、納豆特有のねばねばやにおいが苦手というひともいます。幼児期から好き嫌いなく食べようとする意欲を育てたいという想いを込めて絵本を作りました。ぜひご覧ください！

チーム代表 藤島りこ
チーム員 沼畑好美・青山勢那・伊藤瑞穂・稲村花穂
坂上裕香・櫻井樹音・佐々木綾芽・鈴木梨依
高橋柚花・高橋里菜・館山レナ・橋本実季・松岡百葉



48

函短大

チーム
ピアニング

地域の保育施設におけるジェンダー意識と実践状況-アンケート調査から見えてきたこと-

函館市内の保育施設を対象にアンケートを実施し、「保育現場におけるジェンダー意識」の実態と課題を明らかにした。さらに、学生の立場から園での取り組みを充実させるための視点や具体的な方法を考察した。

チーム代表 住吉英樹
チーム員 長内絆・鈴木暉斗・新山真鈴・泉志保子
藤島りこ

49

北大水

チーム
ホタテのバター焼き

身は美味しく、殻は賢く～廃棄貝殻を利用した吸着剤の開発

メカノケミカル反応により廃棄ホタテ貝殻粉砕粒子表面にカルボキシル基を化学修飾し、重金属イオンの吸着剤として使用することができた。先行研究で開発したバイオソープの約4.5倍の吸着容量を有することがわかった。

チーム代表 倉内凉子
チーム員 諏訪羽也人

50

特別参加

チーム
函館中部高等学校
弓部

グリーンレーザーを用いた光の反射によって変化する色についての研究

グリーンレーザーは波長約532nmの緑色光で、通信や医療など多分野で活用されている。仮実験でピンク、橙、黄、緑、青、紫の付箋紙に照射した結果、ピンクと橙の付箋で光が黄色に見える現象が確認された。本研究はこの色変化の原因解明を目的とする。

チーム代表 熊谷月花
チーム員 酒井莉子・山岸実愛

35

函館大

チーム
大豆ビーンズ

乙部町産品の消費拡大にむけた取り組み ～域内循環による視点から～

北海道乙部町の農産品の主力商品である大豆の消費拡大とブランド化に向けて、域内循環の視点から、函館大学・函館短期大学・乙部町・企業と共同で取り組みを行っています。これらの取り組みについて紹介します。

チーム代表 工藤孝樹
チーム員 萩野翔輝・中村翔愛・佐々木琉之介
松浦冬真・平原虎太郎・内藤大翔・杉本空

36

北大水

チーム
淡水増殖研究室
ウナギチーム

ウナギの卵の成熟・排卵を引き起こすものは何か？

ニホンウナギの安定的な養殖を実現するためには、卵の形成メカニズムを理解する必要がある。そこで我々は、卵形成の最終段階である卵成熟と排卵に着目し、これらのイベントがどのような条件下で、どのような機構によって引き起こされるのかを調べている。

チーム代表 宮下祥馬
チーム員 横山仁哉

37

大谷短

チーム
eye to eye

北海道檜山沖洋上風力発電の地元企業参画促進要素に関する研究

洋上風力発電の誘致には地元企業の参画が重要である。そのためには企業同士等が話し合いを促進させることが重要である。本研究では、話し合いを促進させるために必要な要素を、企業・北電・行政が連携して行った意見交換会の音声データ分析から明確にした。

チーム代表 大高将
チーム員 住吉瑠菜・浜田磨瑚・伊藤悠那・吉田雅
澤田大知

51

未来大

チーム
Step&

ARで十数年後の未来課題を解決！～散歩を物語に「Step&」～

自動運転や在宅勤務で歩く機会が減少するという十数年後の課題に対し、現代技術で解決を目指す。AR×スマホで現実にも物語を重ね、生成AIが様々なエンディングを描く。誰もが主人公となり、散歩を「冒険」へと変えるサービスを提案する。

チーム代表 猿田亮介
チーム員 岩田悠河・三浦甲斐・小笠原新菜・木村了

52

特別参加

チーム
大学コンソーシアム学都ひろさき
学生委員会いしてまい

より良い弘前を創る・発信する

”いしてまい”とは津軽弁で「良すぎて仕方がない」を意味し、「弘前のために何ができるのか」を考え活動しています。今年度は、飲食店企画、伝統文化企画、市立博物館や美術館への取材等に取り組み、その活動について発表します。

チーム代表 長谷川紡
チーム員 成田ちなみ・村上葵

53

未来大

チーム
ずうふと2025 学内案内グループ

もう迷わない！～デジタルサイネージを活用した来訪者向け学内案内システム～

公立はこだて未来大学をフィールドに、複雑な校内をスムーズに移動できるよう支援する学内案内システムについて発表を行います。対象者は外部講師や企業担当者、イベント参加者などの来訪者であり、一人で迷わずに目的地にたどり着けることを目指しています。

チーム代表 谷本大地
チーム員 青野太陽・斉藤健太・浦雅宏・坂部和音

38

未来大

チーム
古賀耀

ヒアラブルデバイス内蔵マイクを用いた口呼吸音分類による入力手法の提案

イヤホン等ヒアラブルデバイスに内蔵されるマイクを使って呼吸音を対象とする音響センシングを行い、デバイスへの入力を行う手法の提案を行う。それに伴った新たに30程度の呼吸ジェスチャの提案と、関係する技術についての紹介も行う。

チーム代表 古賀耀

39

北教大

チーム
メダカ教育委員会 函館支部

育ちの良さで決まる！お家で簡単メダカ実験

水槽内で藻が茂り、いつでもつまみ食い可能なワンパクメダカは、人間から餌を与えられたときだけ食べられる育ちの良いメダカよりも、餌を欲しがらずオベラント条件付けによる学習は身につくにくいのではないかと考え、ブラカップを用いた輪くぐり実験を行った

チーム代表 田澤篤志
チーム員 川村耀・深野煌太・齋藤優心・菅原大輝
菊地なな子

40

函館大

チーム
専門ゼミナール蘭班

函館グルメの二重構造 一観光向けの味、地元向けの味ー

近年、函館の観光形態が変化し、従来の団体旅行から個人旅行へのシフトが進んでいる。私たちは、函館を訪れる観光客と地域住民の双方を対象に、食事に関する意識を把握するためのアンケート調査を実施し、両者のニーズを踏まえた観光振興の政策提案を行う。

チーム代表 鳥居天翔
チーム員 矢口祐太郎・福澤竜起・宮武奏太

54

CCH

チーム
ライブラリーリンク

人をつなぐ 本でつなぐ

ライブラリーリンク（LL）とはキャンパス・コンソーシアム函館のもとに設置された図書館連携のための組織です。市内8高等教育機関と函館市中央図書館が2009年から連携しています。函館市内には、個性のある図書館がいくつもあります。現在、ライブラリーリンクに参加している図書館の蔵書数の合計は、150万冊以上。これは、大規模図書館にも匹敵します。ライブラリーリンクは、読書をはじめ、学習や研究のより充実した環境を函館地域のみなさんに提供するため活動しています。

チーム代表 キャンパス・コンソーシアム函館

55

未来大

チーム
高度ICT演習 はこんだて

家庭と給食をつなぐアプリ はこんだて

函館市内の学校給食情報をスマホで手軽にチェック、献立表や人気レシピ、栄養情報などを掲載。市役所保健給食課や学校栄養士と連携し、より良いアプリを目指しています。今年度は提携している小学校でリリースでき、主に運用と機能改善を行っています。

チーム代表 井田和樹
チーム員 澤田萌衣

56

函館大

チーム
LOVE IN MY TOWN

函館観光のこれから -研究結果から何ができるか-

函館市では、年間の観光入込客数において上半期に比べ下半期が少ない課題がある。私たちは、函館を訪れる観光客を対象に、観光に対する満足度とその理由を把握するためのアンケート調査を実施し、調査結果をもとに、観光客のニーズを踏まえた政策提案を行う。

チーム代表 谷内田晴
チーム員 永井柚羽・柴田怜士・宮下蓮・金原海聖・齋藤愛翔

41

未来大

チーム
情報デザインコース2年生

仮想生物

私たちは授業で仮想生物を制作しました。仮想生物とは「もしもこんな生物がいたら」というテーマのもと、未来大学周辺や自分の地元などの歴史や特産品を調べ、創造しました。人が近づくと、反応して動いたり光ったりします。

チーム代表 金川柚南
チーム員 小野耕太・西尾真帆・近藤結香・新井田心優
本間唯華・近藤清香

42

特別参加

チーム
函館西高等学校
メタハコダテ計画

仮想空間で西高再現

函館西高校の校舎を仮想空間上に再現しました。この活動は西高および函館のPRを目的としており、中学生の学校見学の手段として利用してもらうことも想定しています。バーチャルから函館を世界に広げ、今まで以上に魅力的な街づくりに貢献していきたいです。

チーム代表 永澤伸基

43

未来大

チーム
鈴木翔太

MMORPGを題材としたパーソナルなコンサート体験による2.5次元的な惹き込み効果の検証

愛着のある自身のアバターはコンテンツに惹き込む効果があり、没入感や感情的共感を高め、コンテンツそのものの体験価値の向上や理解度の向上につながるのではないかとという仮説を実験によって検証する

チーム代表 鈴木翔太



57

未来大

チーム
Happy New Wear

Happy New Wearーデジタル衣服が拓く未来

「Happy New Wear」は衣服をデータ化し、AR技術で自由に着替えを体験できる次世代型ファッションサービス。環境負荷を軽減しながら個性を表現し、新しい自分に出会う楽しさを提供します。

チーム代表 長崎晴
チーム員 名和樹輝・江戸大晟・木村了

58

特別参加

チーム
函館中部高等学校
研究 羽球

シャトルコックの運動について

本研究では、シャトルコックの劣化具合と運動との関係性について調査した。そのために、まず失った羽の枚数とその時の空気抵抗の値の関係性について調べた。その結果、シャトルコックが羽を失う毎に、速度がどのように変化するのかが明らかとなった。

チーム代表 小川源幹



44

北教大

チーム
プロジェクトH

よそ者×ストーリーで掘り起こす地域の価値：檜山地域を事例に

本発表では、地域社会の歴史文化資源を総体的に、かつ内外に発信するために有効な方策を検討する。ストーリー化という手法とよそ者の重要性という先行研究の知見を踏まえ、檜山地域の歴史文化資源のストーリー化に取り組みんだ結果とその意義について報告する。

チーム代表 紺野草太
チーム員 小林穂乃佳・佐藤利樹・鈴木愛菜・相馬健佑
道場美海・村本凌誠

45

未来大

チーム
高度ICT演習 はこだてSweets

函館スイーツの魅力を伝えるWebアプリの開発

はこだてSweetsは函館にあるスイーツの消費拡大を目的として活動しています。今年度は、プロダクトの意義から再定義し、スイーツを探す楽しさと購入につながる仕組みを提供するためのスイーツ検索Webアプリケーションを開発しています。

チーム代表 角脇輝映
チーム員 伊東穂波・菊池皓太・佐々木乃愛
ハイダルアジス・梨本葵・松田藍子

59

未来大

チーム
未来大ロボットチーム

ソーシャルロボットによる新たな体験

私たちは卒業研究でソーシャルロボットについて研究しています。矢印に着目した案内ロボット、膨らむ動作を活かしたロボット、決済をしてくれるロボットの3つを展示します。来場者とロボットコミュニケーションを通じて、ユニークな体験を提供します。

チーム代表 高橋舜
チーム員 仁尾昂・柳原漸

60

函高専

チーム
NORivation

No plastic, Just seaweed!

布海苔、海藻、昆布を原料とした薄く透明で袋状に加工可能なフィルムを開発しています。このフィルムは伸縮性があり、ドーナツを包む紙のような質感を持つなど、様々な特徴を備えています。カップ麺のかやくを包む袋や食べ物に包む袋への応用を考えています。

チーム代表 平野朱葉
チーム員 西川景サミュエラ・棧翠蓮

